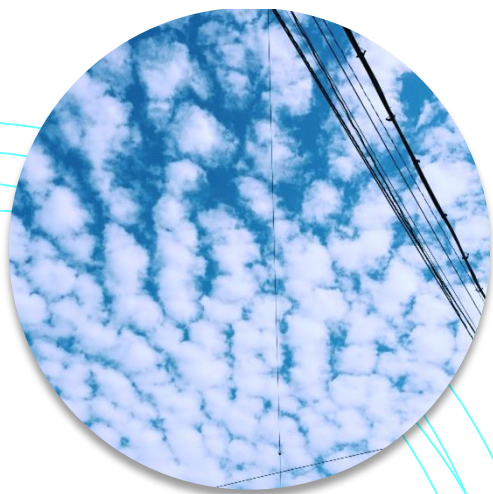


凌和電子株式会社

環境・安全報告書

Environmental And Safety Report

2016



CONTENTS

—目次—

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 会社概要	3
4. 基本理念	4

Environmental

5. 環境マネジメントシステム	5
6. 2015年度環境目標及び活動実績	6
7. 環境配慮型製品の提供 特集：再生可能エネルギーへの挑戦	7
8. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移、 個別のエネルギー使用の内訳	9
9. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	10
10. 環境教育	11
11. 環境監査	12
12. 環境リスクマネジメント	13
13. 環境コミュニケーション	14
14. 地域貢献・工場独自の活動	15

Safety

15. 安全衛生管理	17
16. 環境負荷マスマランス	19

編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)を導入した2006年以来、当社の環境活動をステークホルダーの皆様にご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。今回は11年目となり、環境目標に掲げた活動や安全衛生活動、また社会貢献活動についても併せて紹介しています。

又、内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」等の活動と併せ、地域社会との共生として社会貢献活動や行政施策への関わりも含めてご紹介しております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン」を参考としています。また、弊社ホームページからもご覧いただけます。

報告対象範囲

●報告対象期間
2015年7月1日～2016年6月30日
(2015年度)

●報告対象
凌和電子株式会社
〔 本社、本社工場、元町工場、
山形工場、一関システムセンター 〕

環境・安全報告書2016年版を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社は、テクノロジーの進化に欠かせない「計測と制御」の分野にこだわり続けて40余年。さらなる進化を目指して日々研究開発に取り組んでまいりました。資源の少ない日本において、モノを作って付加価値を付け、社会に貢献していくということ。これは当社の企業理念や社是である「創造と奉仕の精神」の基本スタンスだと思っております

さて、付加価値の1つとして挙げられるのは“エコロジー”です。当社でも「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題と位置づけ、ISO14001認証取得をはじめ、「環境配慮型製品の提供」、「地球温暖化ガス排出量の排出削減」、「社会貢献活動」等の目標を立て取り組んでおります。今回は環境配慮型製品の提供の中で、再生可能エネルギーの分野への挑戦についてご紹介させていただきました。当社の環境に寄与するものづくりとして、また被災地宮城

の企業として、広くお客様へ提供し喜んでいただけるよう、より一層の努力を重ねてまいります。

安全衛生分野においては、2013年7月より事業継続計画(BCP)を策定し運用を開始しております。東日本大震災の発生から5年半が経ちましたが、その間にも熊本地震、浸水被害、土砂災害等の様々な災害が発生しております。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。災害はいつどこで発生するか分かりません。当社も危機管理に努め、復興へ向けて共に歩んでまいります。

本報告書は当社の地球環境保全への取り組みや、2015年度の活動実績をまとめたものです。本報告書を通じて、ステークホルダーの皆様にご意見を伺い、今後の事業運営に生かしてまいります。是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いに存じます。

当社は「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい環境と調和が取れた企業活動を継続・推進していきます。

2016年9月
代表取締役社長

安藤 仁司



社名 凌和電子株式会社
創立 昭和47年7月28日
資本金 7000万円
役員 代表取締役社長 安藤 仁司
 取締役会長 安藤 正如
 専務取締役 中島 正美
 取締役 川田 智
 (2016年9月1日現在)

事業内容 計測/検査器設計製作
 計測/検査システム設計製作
 画像検査/処理システム設計製作
 データ収集/管理システム設計製作
 磁気特性計測システム設計製作
 各種プリント基板設計製作
 各種アセンブリ(試作、量産)
 リペア&メンテナンス

沿革 1972 (S47) 凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
 1989 (H 1) 仙台市鶴代町に東部工場開設
 1999 (H11) 山形市高原町に山形工場を建設
 2000 (H12) 仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
 2001 (H13) ISO9001:1994認証取得
 2006 (H18) ISO14001:2004認証取得
 2006 (H18) 東部工場を元町工場に併合
 2009 (H21) 株式会社サンユー技研をM&A
 2012 (H24) 一関市狐禅寺に一関システムセンター開設
 2013 (H25) 一関システムセンターISO9001、14001拡張審査受審(認証取得)

所在地

一関システムセンター
 岩手県一関市狐禅寺



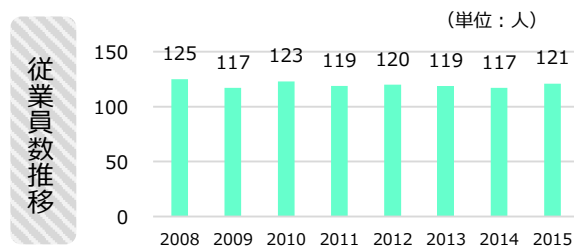
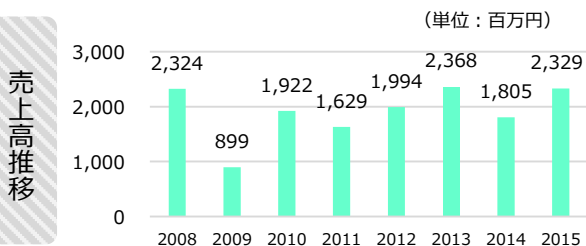
山形工場
 山形県山形市高原町



本社・本社工場
 仙台市若林区南材木町



元町工場
 仙台市若林区六丁の目



4

基本理念

■ 基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に結びつけています。なお、2012年7月に新たな中期経営方針を定め、より明確な目標を掲げています。

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2009年1月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤仁司

経営品質方針

基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

- ・規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
- ・新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
- ・改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
- ・当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
- ・顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。


行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条約及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

中期経営方針

スローガン

Mind to the 
～価値にこだわれ！～
(勝ち)

厳しい経営環境が続く中 競争に勝ち抜き企業価値を高め 社業発展の道を歩んで行こう

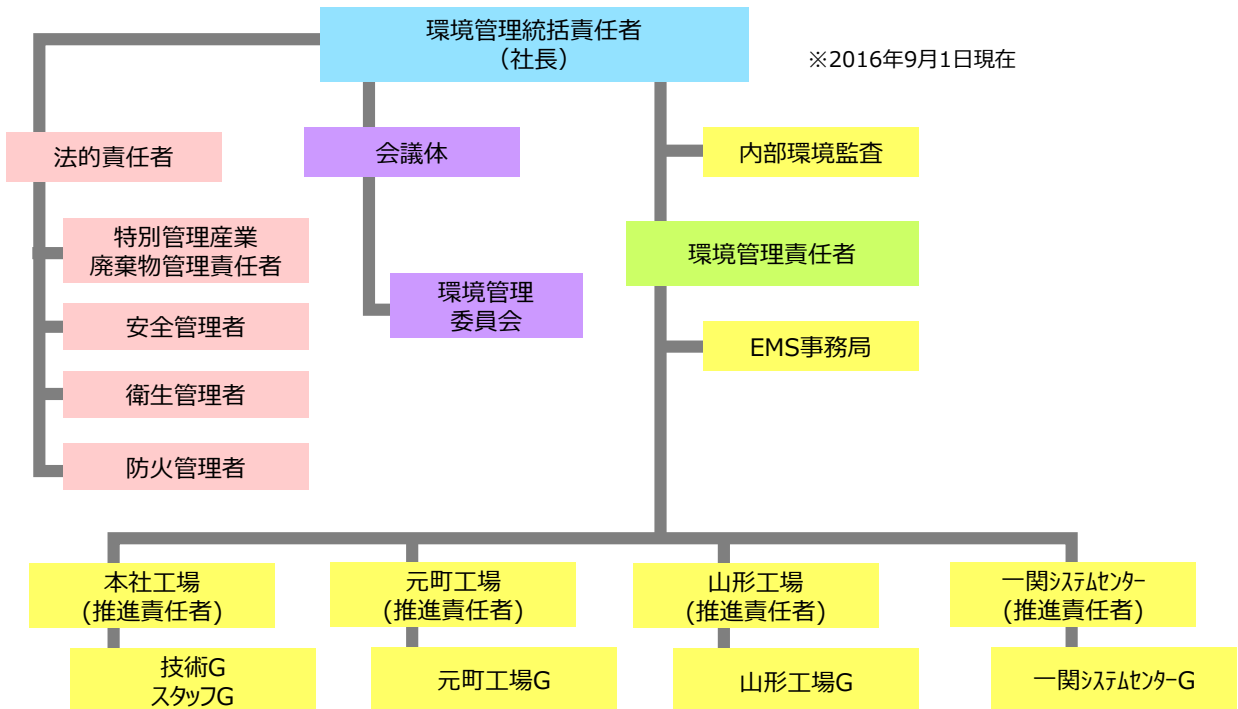
- ◇3事業(充放電システム、画像処理、通信システム)の事業化確立
- ◇新規分野への営業活動の推進
- ◇海外市場への積極的アプローチ
- ◇3事業(充放電システム、画像処理、通信システム)関連技術の深化
- ◇磁気応用計測技術の展開と研鑽
- ◇環境に配慮した製品開発・設計業務
- ◇確固たる製品品質を担保するプロセス管理の徹底
- ◇付加価値生産性の更なる向上
- ◇能力開発のためのチャレンジ推進
- ◇コンプライアンス遵守に基づく社内諸規則の見直し
- ◇経営指標の予測管理
- ◇業務の効率化とスピードアップ

5

環境マネジメントシステム

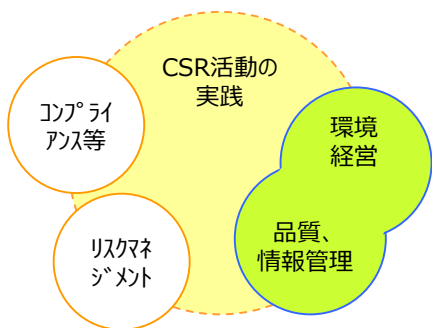
当社の環境管理体制は、2009年1月から社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。2013年度からは一関システムセンターを編入し、4サイトでの管理体制となりました。

■ 環境管理体制



■ 中期計画の基本的な考え

当社では環境経営だけでなく、コンプライアンス、品質、情報管理、リスクマネジメント等を包含した【CSR活動】への発展へ向け取り組んでいます。



■ ISO14001認証継続

2015年10月に維持審査を受け、認証維持となりました。

適用範囲：
本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC

認証登録機関：
Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.

認証登録番号：
3280374



6

2015年度環境目標及び環境実績

当社は、中期計画に基づいた環境マネジメントプログラムを策定し、2015年度の活動を推進してきました。その中で重点目標と維持目標を分けることでメリハリを出し、ポイントを絞った活動を行っています。重点目標の1つである「環境配慮型製品の提供」は、ものづくりの中で取り組むべき重要なテーマであると捉えています。その他「工場独自の活動」として、各工場の特色を生かした業務改善を図る活動を展開し、広い意味で環境にプラスになる活動を推進しています。

■ 2015年度活動実績(報告範囲：本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC)

2015年度は全社目標として改善目標2項目、維持目標5項目を掲げました。結果として地球温暖化ガスが目標値の+2.1%となり目標未達となりました。これは生産状況によるもので、売上ベースの原単位で見ると△13%で達成していることから分かります。その他人数原単位が増えている項目がありますが、基準年に比べ従業員数が減少していることが要因です。

評価基準

◎：中期計画をクリア ○：計画対比100%以上達成 △：95%以上達成 ×：95%未満

実績算出

実績値(%)：2015年度計画対比/()は同原単位比(人員ベース)

No.	項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
		中期計画 2016年度	年度計画 2015年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供	全製品環境配慮型化の推進	新規製品Pbフリー95%以上 環境配慮型製品登録50%以上 自主的RoHS7件以上	Pbフリー100% 登録84% 自主的RoHS16件	○	P.7
2	地球温暖化ガスの排出削減	2012年度実績より4%以上削減	2012年度実績見込より3%以上削減	+2.1% 〔+5.7%〕	△	P.9
3	廃棄物の排出削減 (一般廃棄物)	2013年度目標維持継続	1.2kg/人・月以下	△4.0% 〔+16.5%〕	◎	P.10
	廃棄物の排出削減 (産業廃棄物)	ゼロエミッション維持継続	再資源化率95%	全工場：100%	◎	P.10
4	オフィス用品のグリーン調達(調達率)	100%継続	100%継続	100%	◎	-
5	紙資源の削減(購入量)	2013年度目標維持継続	1.1kg/人・月以下	△11.2% 〔+18.3%〕	◎	P.10
	節水活動の推進(水使用量)	2013年度目標維持継続	0.6m ³ /人・月以下	△17.9% 〔+6.0%〕	◎	P.10
6	環境リスクの低減	環境コンプライアンスの拡大強化	緊急事態対応訓練の実施	各工場訓練実施	◎	P.13
		環境安全報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース12回発行	◎	P.14
		エコ生活推進	情報提供(原則隔月)	エコ生活情報6回発行	◎	P.14
7	環境コミュニケーション	地域・行政への協力	地域・行政への協力3件以上	・Fun to Share参加登録 ・カーシェア、ウォーク・バイ運動参加 ・エコドライバー賛同 ・仙台市まち美化サポーター登録・実施 ・環境配慮型事業所認定・更新	◎	P.14
		工場独自活動の強化(4件以上/工場)	工場独自活動の強化(4件以上/工場)	全工場実施	◎	P.15~

※No.1、2は改善目標 No.3、4、5、6、7は維持目標

維持目標の管理は管理値を基準として5%増までは管理内とする

※No.1の「自主的RoHS」とは、客先指定がなくとも自主的にRoHS対応とした製品のこと

※工場独自の活動は改善目標とし、15頁以降にご紹介しています

環境配慮型製品の提供

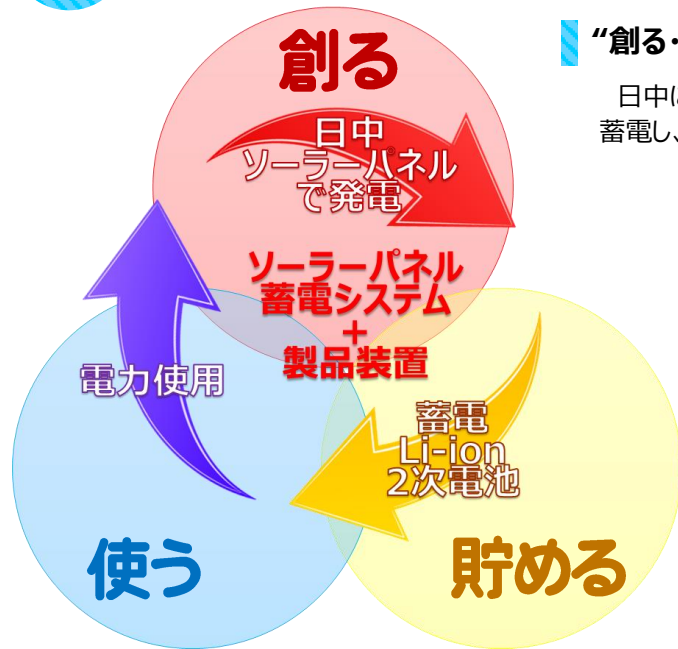
環境へ配慮した製品の提供は、当社の環境目標の中でも特に重要なテーマとして取り組んでいます。当社では製品のライフサイクルを考慮したアセスメント評価を行い、全製品の環境配慮型化を目指した活動を行っています。2015年度はアセスメント実施物件の84%を環境配慮型製品として登録しました。今回は当社の新事業として開発を進めている『再生可能エネルギー分野』への挑戦についてご紹介します。

SPECIAL 特集～再生可能エネルギーへの挑戦～

今、日本だけでなく世界的にも再生可能エネルギーが注目され、環境の視点のみならず、災害・防災の視点からもそのニーズは高まりを見せています。災害大国日本で私たちは5年前、東日本大震災を経験しました。そして

身を持って感じた「電源の安定確保」の重要性。—被災地宮城の企業だからこそ、復興の礎となりたい—その思いは5年の間にますます強くなりました。復興はまだ道半ば、私たちは共に挑戦を進めてまいります。

蓄電コントローラー



“創る・貯める”で電源が供給できない環境に対応

日中にソーラーパネルで発電した電力をリチウムイオン2次電池に蓄電し、その電力により製品を稼働させることが可能です。

太陽光パネル



蓄電コントローラー



直流

特徴

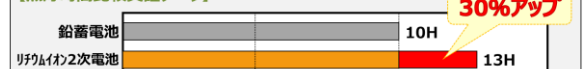
- ・国産のリチウムイオン電池を搭載(鉛フリー)
- ・独自の高効率充放電回路技術
- ・電圧を監視する事によりバッテリーの長寿命化を実現
- ・曇りでも充電可能なシステム

リチウムイオン2次電池特徴

	鉛蓄電池 (1200W)	リチウムイオン2次電池 (1200W)	
大きさ (W×L×H)	170×338×212 (mm)	123×274×134 (mm)	約1/2以下
重量	34kg	8kg(10枚)	約1/4以下
充放電効率	70~80%	99%	30%アップ
充電時間	8時間(0.2C)	1時間(1C)	約1/8以下
寿命	約500回	3000回以上	6倍以上

リチウムイオン2次電池は、充放電効率が高いので、その分電池を少なくできます

【点灯時間比較実証データ】



VOICE

●人の為になる製品の開発へ

2014年12月、大学の先生との出会いをきっかけに、鉛からリチウムへバッテリー置換えの仕事が様々な方向へ広がりを見せました。今後は停電時でも使えるWi-Fiアクセスポイントや防犯システム等、通信機能を絡めた展開を考えており、人のためになる開発を進めていきます。



新事業推進グループ

● 高橋 和雄 ●

当社の蓄電コントローラーを使用した製品をご紹介します。今後も様々なニーズに合わせ展開していく予定です。

LED照明灯

いつでも場所を選ばず光を供給

自動点灯・消灯を行うシステムで、停電時でも独立して光を供給します。

特徴

- ・電気代ゼロのエコシステム
- ・電気工事不要
- ・どこでも設置可能
- ・災害時非常灯にも

東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田では復興作業はまだ途中です。夜は照明の足りない状況の中、設置された駅で当社のLED照明灯が活躍しています。もちろん停電時にも消えることはありません。

利用シーン

街灯(防犯灯)、バス停、公園、被災地 他...



実用例



バスシェルタ

JR東日本 大船渡線
BRT(バス高速輸送システム)
高田高校前駅



バスポール



VOICE

●復興の一翼を担う製品へ

今回被災地への設置にあたり、防水はもちろんのこと、海沿いへの設置ということで錆にも気を配りました。基板や箱の小型化等バージョンアップを繰り返し、現在の形になりました。被災地を初めに訪れたのは昨年6月。全てが仮設の状態から行く度に代わる風景に、復興への力を感しました。



新事業推進グループ
● 亀卦川 宏人 ●

害獣撃退装置

レーザー照射で24時間害獣の忌避

畑や様々な施設に害を与える害獣をレーザーで撃退する装置です。

特徴

- ・猪、鹿、猿 他に効果あり
- ・昼夜(24時間)害獣の忌避が可能
- ・持ち運び可能(電柵の代替)
- ・レーザー使用の為農作物に影響なし

昨今、動物による様々な被害をテレビ等でよく耳にするようになりました。農地やゴルフ場・線路等、動物に入られては困る場所の多くは、電源の確保が難しい場合が多い現状です。当社の装置は一石二鳥でその悩みを解決します。

利用シーン

山、畑、果樹園、線路脇(鉄道)、ゴルフ場 他...



実用例



↑果樹園
畑→

逃げまるくん

※当社製造



VOICE

●期待以上の製品の提供に向けて

この製品は相手が動物の為、耐久性の実現と効果の検証には苦労しました。その甲斐あって実証実験に協力いただいた農家の方にお褒めの言葉を頂き、手ごたえを感じています。ニュースでも取り上げて頂いており、期待値の高さに応えられる製品を提供出来るよう、日々取り組んでいます。



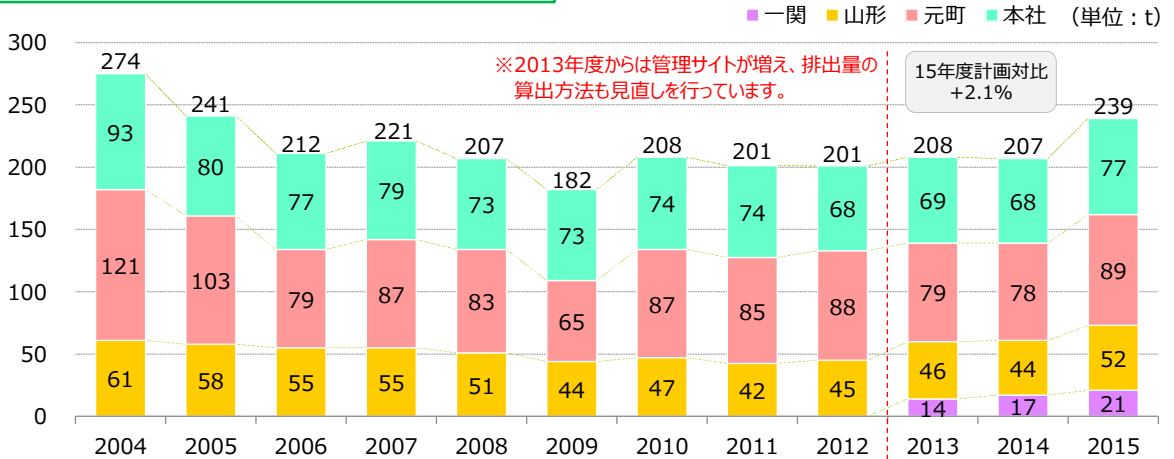
新事業推進グループ
● 石賀 康雄 ●

地球温暖化ガスの排出削減

当社は、事業活動によって生じるあらゆる環境負荷の低減に努めています。特に地球温暖化ガスは世界的にも削減が求められており、当社でも尚一層の削減を図るべく改善目標に設定し取り組んでいます。しかしながら2015年度の二酸化炭素の排出量は239 tであり、計画対比で2.1%の増加となりました。これは生産状況や事業活動の積極的展開に伴うものではありませんが、今後の課題として捉え、改善を進めてまいります。



地球温暖化ガスの排出削減推移



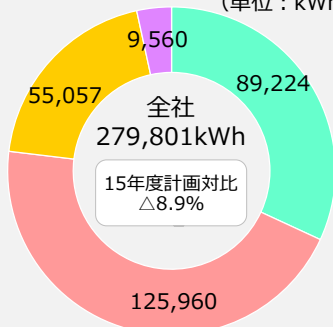
個別のエネルギー使用の内訳

エネルギー源ごとでは計画対比で、電気使用量8.9%減、灯油使用量22.9%増、ガソリン使用量15.4%増となりました。冬期の仕事量の増加や遠方の客先への対応等

が影響してしまいました。今後はエコドライブや省エネ活動はもちろんのこと、仕事の効率や質を向上させる取り組みを推進し、広い意味での環境改善を目指していきます。

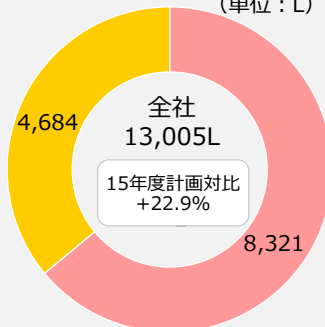
電気使用量の削減

(単位: kWh)



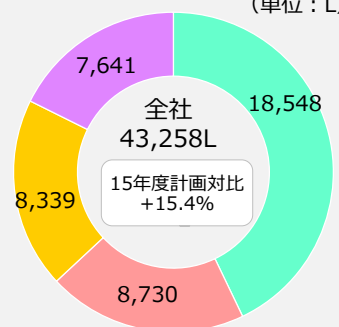
灯油使用量の削減

(単位: L)



ガソリン使用量の削減

(単位: L)



昨年に続き、7月に社員への意識調査を行いました。上位に入ったものは昨年と変わりありませんでした。割合的にも±5%の範囲内での推移となり、身の回りの活動ということで定着が見られます。

1. 感心のある環境問題や環境活動

1. 地球温暖化 ... 64名 51%

2. ごみリサイクル ... 49名 39%

3. 空気の汚れ ... 47名 37%

2. 環境に優しい生活をするために実行していること

1. 電気・ガス・水の節約
ゴミの分別 ... 90名 71%

2. 車を控えエコドライブ ... 46名 37%

3. 家電を省エネタイプへ ... 45名 36%

※順位横のパーセンテージは昨年対比

9

その他の環境負荷低減活動

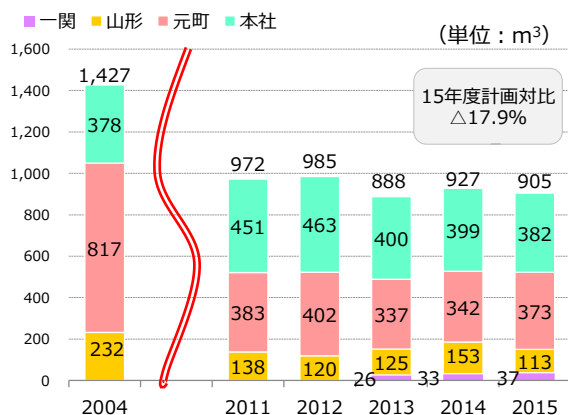
当社では地球温暖化ガスの低減の他、省資源活動と廃棄物の排出削減活動を行っています。これらの活動は社員へ定着しているため維持活動としており、実績もグラフの通り横ばいとなっています。



省資源活動

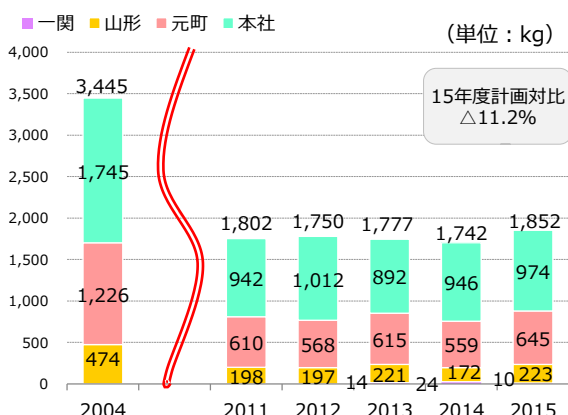
節水活動の推進

2015年度の水道使用量は905m³で、計画対比17.9%減となりました。当社での水の用途はほとんど生活系であるため、ほぼ横ばいでの推移となっています。



紙資源の削減

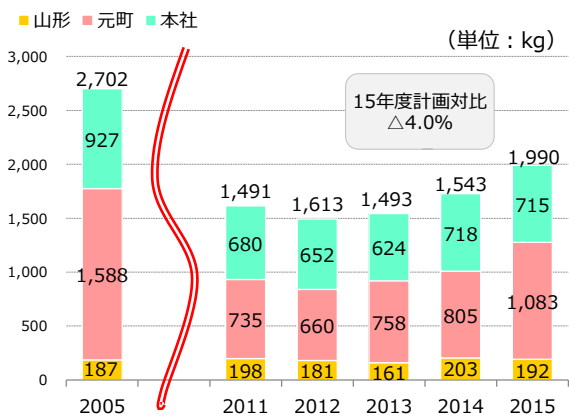
2015年度のコピー用紙等の紙購入量は1,852kgであり、計画対比11.2%の削減となりました。社内での電子化は定着しているため、社外への働きかけも積極的に行っています。



廃棄物の排出削減

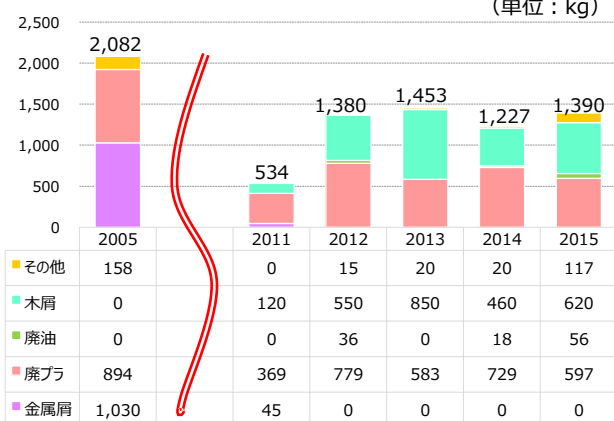
一般廃棄物

2015年度の一般廃棄物排出量は1,990kgとなり、計画対比4.0%減となりました。震災以降増加傾向ではありますが、計画値以内で維持しています。



産業廃棄物

2015年度の産業廃棄物の排出量は1,390kgでした。金属屑関係の全リサイクル化は継続しており、会社全体としてゼロエミッションに取り組んでいます。



※2015年度実績は2015年4月～2016年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの



PIGUP

●デマンドモニターを設置

元町・山形工場では高電圧監視システムの更新に伴い、デマンド機能付きの設備を設置しました。

※30分単位での電気使用量を監視します



当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。

■ 環境教育の実施

教育名	実施部門	実施日	受講者数
経営層・幹部教育	業務管理課	本社 7月29日,31日	4名
管理職・一般社員教育	業務管理課 (推進責任者)	本社工場 7月29日 元町工場 7月31日 山形工場 7月31日 一関SC 7月28日	113名
新入社員教育	業務管理課	本社 4月 6日	1名(2名)
専門分野別教育			
廃棄物保管管理者教育	業務管理課	山形工場 1月20日	1名
内部環境監査員フォローアップ教育	業務管理課	本社 8月12日	7名

・上表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「本社」としました

2015年
7月

階層別一般教育

毎年7月に全社員を対象とした教育を実施しています。環境に関するトピックス、前年度の環境活動の結果、今年度の活動内容、顧客の要求事項等の周知を目的としています。



一関

2015年
8月

内部環境監査員 フォローアップ教育

内部環境監査の質の向上及び監査レベルのアップを目的として、毎年内部監査実施前にフォローアップ教育を行っています。



2016年
1月

専門教育 廃棄物保管管理者教育

新たに任命された山形工場の廃棄物保管管理者を対象とした教育を行いました。各工場に管理者を置き、確実な管理を行っています。



2016年
4月

新入社員教育

2016年4月に新入社員1名と中途採用者2名を対象として、当社の品質・環境のISOの取り組みや活動について説明を行いました。



当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

■ 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001維持審査	外部審査機関による ISO14001維持審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査（全職場）	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 安全衛生を含めての総合監査	年1回

2015年
10月

ISO14001維持審査

2015年10月に受審した維持審査では不適合が1件ありましたが、是正を行い認証継続しています。また、観察事項やアドバイスについても積極的に改善に結び付けるために対応しました。



トップインタビュー風景



現場審査(本社)

2015年
8月

内部環境監査

2015年8月に実施した内部環境監査では不適合3件、アドバイス16件の指摘がありました。アドバイスは9月中に是正、改善を終えました。



元町

2015年
10月

環境管理責任者 巡回パトロール

2015年10月に行った環境管理責任者主催のパトロールでは全ての拠点を回り、6件の指摘がありました。当月中に改善をしています。



山形

■ 緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性がある要因として灯油の漏出事故を掲げています。今年度も給油の際の漏出事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形

■ 廃棄物収集運搬・処理業者現地確認

当社では、委託している産業廃棄物収集運搬業者及び処理業者、またリサイクル業者を計画的に訪問し、保管状況、処理状況、法対応状況等の適切性を確認しています。



廃棄物処分場A



廃棄物処分場B

■ 法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありません。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

■ 当社に適用される環境法規制等

当社は、各工場において適用される環境法規制等についてリストを作成し、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

環境法規制等一覧

大気汚染防止法
水質汚濁防止法
浄化槽法
省エネ法
廃棄物処理法

家電リサイクル法
建設リサイクル法
労働安全衛生法
(鉛則、有機則)
消防法
毒物及び劇物取締法

フロン排出抑制法
自動車リサイクル法
宮城県公害防止条例
山形県環境保全条例
岩手県環境保全条例

仙台市公害防止条例
山形市環境条例
一関市環境条例
仙台市火災予防条例
山形市火災予防条例
一関市火災予防条例

(努力義務は除く)

環境コミュニケーション

当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も引き続き社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、また社内向けには社内イントラネット、環境ニュース(毎月発行)、環境ニュース特集号(エコ生活情報)の発行を継続しています。

■ 当社のステークホルダー



■ 情報発信

環境・安全報告書

当社の環境活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第11回目となります。

環境ニュース(エコ生活情報)

環境ニュースは、社員への情報提供として視覚的で分かりやすい方法として、月1回の発行を継続しています。

社内イントラネット、掲示板

社内イントラネットに環境のコーナーを設け、環境規定類、帳票類、環境活動実績、環境情報、顧客の要求事項、環境に関わる議事録等を開示しています。

ホームページ

当社のホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示しています。

■ 地域、行政活動への参加、協力

Fun to Shareへの参加

当社は低炭素社会の実現に向けた国民運動である気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同し、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

エコにこオフィス

当社は環境配慮型事業所の認定更新を受け、継続してグリーン購入やごみの減量等を行っています。

クールビズ・ウォームビズ活動への参加

当社は2006年より継続してクールビズやウォームビズに協力しています。社員がバッジをつけたり、ポスターを掲示する等、社内外への啓蒙を含め節電を行っています。

エコドライバープロジェクトへの参加

当社はドライバーのマナーアップとエコドライブを推進するプロジェクトに賛同しています。



凌和電子ホームページ



環境ニュース



当社での賛同・登録キャンペーン

地域貢献・工場独自の活動

当社は各工場が自主性を持ち、特色ある活動を展開出来る様に独自目標を設定しています。社会貢献から業務改善など、幅広い活動で取組みの活性化を目指しています。



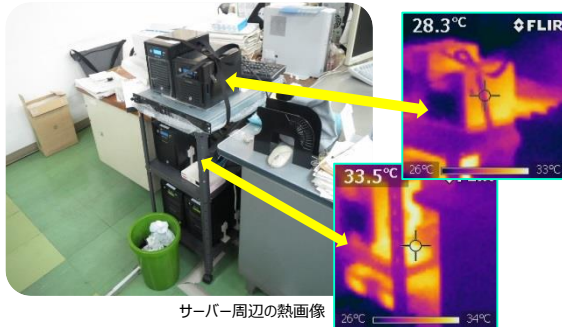
本社・本社工場

本社・本社工場では、設計部隊の業務改善として、過去の設計実績利用による工数削減に取り組まれました。本来業務の改善は重要なテーマと考えています。また、社会貢献としては、仙台市と連

携した活動、「仙台まち美化プロジェクト」「エコにこオフィス」「仙台・みやぎクールビズ宣言」に登録し、活動を推進しています。また、エコキャップ運動や工場内の省エネパトロールも継続実施しています。

省エネパトロール

工場内の配線や危険個所のチェック等を熱画像カメラを使用して行いました。サーバー周辺機器について見直しをアドバイスしています。



まち美化活動

工場の周辺美化を行う「まち美化活動」、隔月実施していますが、4月に1回は清掃範囲を拡大し、全員参加の広域清掃として定着しています。



元町工場

元町工場は主に製造部隊が所属する、仙台の工業団地内にある工場です。2015年度は設備の有効活用として、集中メンテナンスや生産環境の安定化を図りました。また、昨年に続き協力会社の

RoHS規制対応体制の構築に取り組んでいます。その他、インフラの整備として蛍光灯を一部LEDに交換しました。社会貢献では清掃活動や献血活動等、継続して行っています。

設備の有効活用

製造に必要な設備関係をしっかりとメンテナンスすることは、良い製品をつくることにも繋がります。丁寧に長く使用出来るように努めていきます。



LED照明灯への交換

蛍光灯安定器の老朽化に伴い、LED照明灯への交換を進めています。少ない消費電力で明るさも上がり、職場環境が改善されました。



山形工場

山形工場は、設計・製造両方の部隊が所属する工場です。昨年に続き、業務改善として製品製作時の手直し及び再製作率の低減を目標としました。ミスは隠したがるものですが、そこをいかに洗い

出し改善に繋げるかが課題となっています。その他、社会貢献活動では年2回のインターンシップや地域清掃活動、エコキャップ・プルタブ回収運動等を継続実施しています。

地域清掃活動

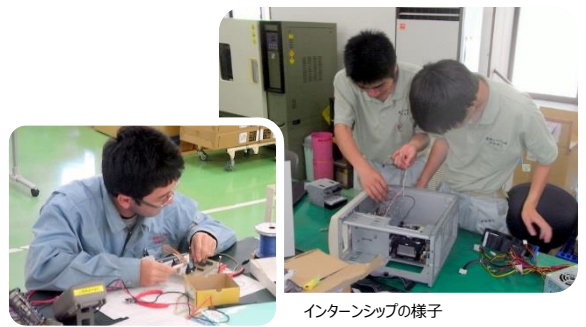
地域貢献の一環として、年2回の広域清掃を行っています。



活動の様子

インターンシップの受入

年2回インターンシップを受け入れ、高校生や大学生の職場体験を支援しています。



インターンシップの様子

一関システムセンター

一関システムセンターは2013年度から当社のサイトとして活動を開始した小規模な事業所です。

2015年度は時間外勤務の削減に取り組んだ他、清掃活動等の社会貢献活動も実施しています。

周辺美化活動

年2回の市の一斉清掃に合わせて、工場周辺美化活動を行っています。



清掃活動の様子

ガソリン使用削減への環境構築

一関システムセンターの一番大きな環境負荷はガソリンです。削減の為にWeb会議やリモテデスクトップの環境を整備しました。



VOICE

●復興の力になる仕事

営業活動で陸前高田等へ行く機会があり、震災被害の大きさを目の当たりにしました。日が落ちると一気に暗くなる被災地でも、学生さんが明るく挨拶をしてくれたことが印象に残っています。当社も復興を後押ししたい思いが更に強くなりました。



第一営業課
● 佐藤 昌巳 ●

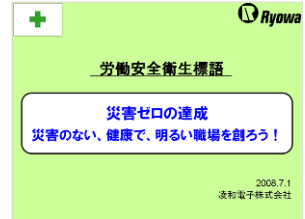


製造課
● 成田 治 ●

●廃棄物の管理

今年1月より山形工場の廃棄物保管管理者として任命されました。今までも分別等はしていましたが、マニフェストの管理や委託業者の現地確認にも立ち会い、改めて廃棄物の処理の流れを確認できました。山形工場ゴミ削減に向け取り組んでいきます。

当社は、[災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)]を標語とし、安全衛生計画に則った活動に取り組んでいます。2013年度からは凌和電子事業継続計画(BCP)の運用を開始しており、東日本大震災の経験をもとに危機管理に努めてまいります。



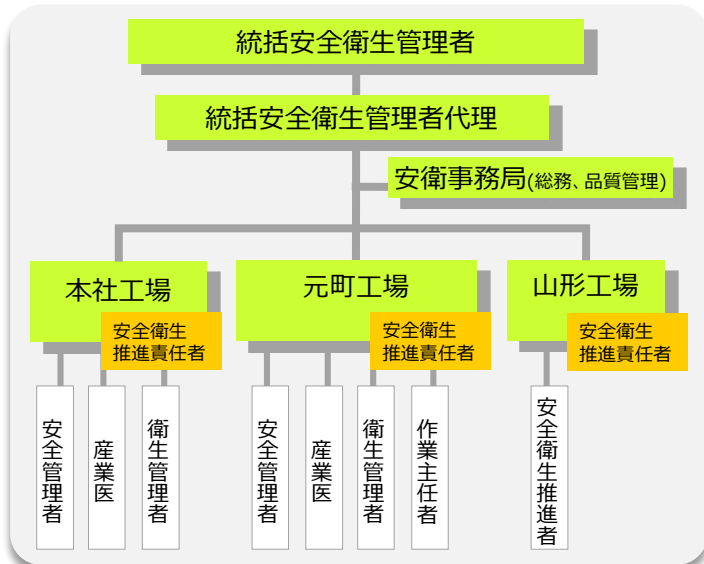
■ 安全衛生活動計画と実績

2015年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

■ 安全衛生管理体制

社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場毎に推進責任者及び法定管理者を定めています。



※一関システムセンターは小規模事業所の為対象外としています。

■ 安全衛生教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。

■ 健康診断

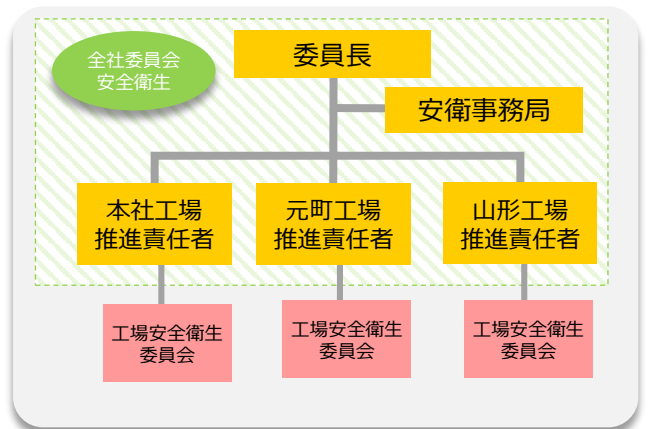
当社は、毎年定期健康診断、生活習慣予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。

2015年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。

■ 安全衛生委員会組織

全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。

工場の委員会ではヒヤリハットをはじめとした様々な意見を吸い上げ、改善を図ることでより良い職場環境を目指しています。



本社教育の様子

■ 防災訓練

各工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しています。初期消火活動や通報、避難等、緊急時に慌てず組織的な対応が出来るように、全社員で取り組んでいます。

本社



元町



山形

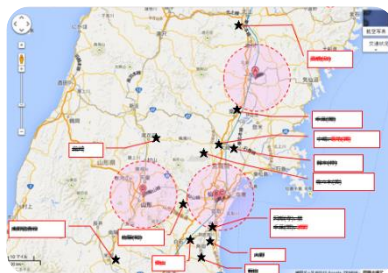


BCPへの対応

東日本大震災の経験から、「使えるBCP」を目指した準備を行っています。今後もブラシアップしていく必要がありますが、今回はその一部をご紹介します。

20km圏内居住者マップの整備

一般的に、災害時に徒歩帰宅が可能な目安が20kmと言われていています。帰宅困難者となりそうな社員は予め特定し、事前準備をしています。



20km圏内居住者マップ

備蓄品の準備

当社では非常時に従業員が活動できるための防災用品を準備しています。備蓄品はリストを作り、期限等のチェックを行っています。



備蓄品

緊急時連絡網の実施訓練

当社では緊急時の連絡網を設定していますが、実際の利用時の混乱を避けるため、連絡を回す訓練を実施しています。



緊急時連絡網

171-災害用伝言ダイヤルの利用訓練

災害時には電話がつながりにくくなることを考え、連絡手段として伝言ダイヤルの利用を想定しています。訓練可能な日を選び、全社的な利用訓練を実施しています。



● INPUT

全社

● OUTPUT

電力：279,801kWh

ガソリン：43,258リットル

灯油：13,005リットル

水：905t

紙：1,852kg



二酸化炭素：239t

一般廃棄物排出量：1,990kg

産業廃棄物排出量：1,390kg

排水量：905t

本社

● INPUT

● OUTPUT

電力：
89,224kWhガソリン：
18,548リットル

水：382t

紙：974kg



二酸化炭素：77t

一般廃棄物排出量：
715kg

排水量：382t

元町

● INPUT

● OUTPUT

電力：
125,960kWhガソリン：
8,730リットル

灯油：8,321リットル

水：373t

紙：645kg



二酸化炭素：89t

一般廃棄物排出量：
1,083kg産業廃棄物排出量：
1,127kg

排水量：373t

山形

● INPUT

● OUTPUT

電力：
55,057kWhガソリン：
8,339リットル

灯油：4,684リットル

水：113t

紙：223kg



二酸化炭素：52t

一般廃棄物排出量：
192kg産業廃棄物排出量：
263kg

排水量：113t

一関

● INPUT

● OUTPUT

電力：
9,560kWhガソリン：
7,641リットル

水：37t

紙：10kg



二酸化炭素：21t

排水量：37t



凌和電子株式会社

〒984-0805

宮城県仙台市若林区南材木町48番地

URL : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

お問い合わせ：業務管理課（飯田・永峯）

TEL:022-266-4188 FAX:022-268-1906

発行：2016年9月 次回発行予定：2017年9月